

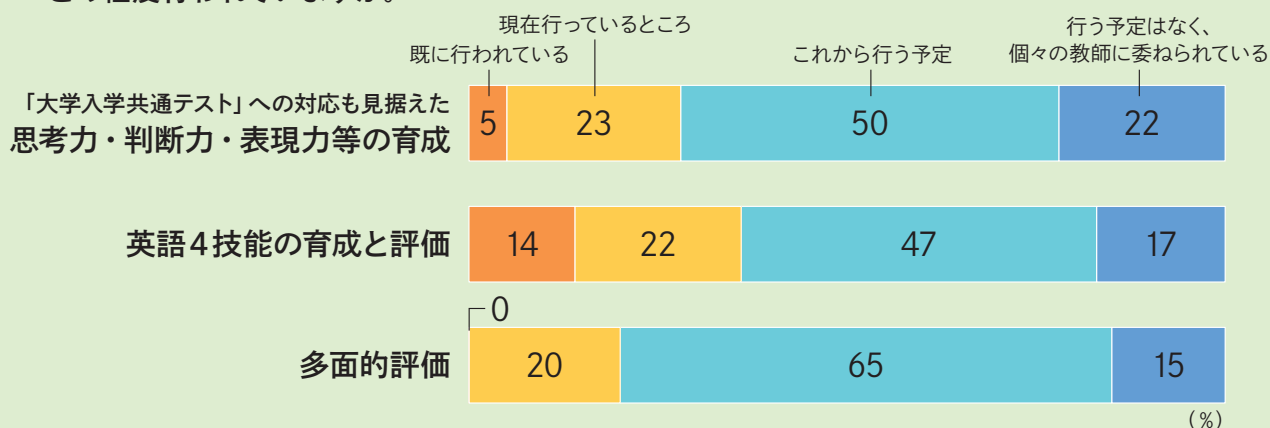
「大学入学共通テスト」初実施学年が入学 3つの教育課題に どう取り組むか

2018年も新年度がスタートしたが、今年度の高校1年生には例年以上に注目が集まっている。それは、現在進行中の高大接続改革における大学入学者選抜の施策の多くが、最初を実施される学年だからだ。

大学入試センター試験に代わる「大学入学共通テスト」の実施、同テストの枠組みにおける民間の英語の資格・検定試験の活用、そして、調査書の様式の変更を始めとする多面的・総合的な評価への転換など、18年度入学生がかかわる大学入試の変化は多岐にわたり、高校現場にはその対応が求められる。今号は、中でも重要な3つの教育課題に着目し、先進校の事例から取り組みのヒントを探る。

3つの教育課題への取り組み状況

Q 次の教育課題について、新高1生に対する指導の方針・方法・計画の組織的な立案は、どの程度行われていますか。



出典／『VIEW21』高校版読者モニターへのアンケート結果（アンケートは、2018年2月にウェブとファクスで実施。回答数は104）

本号のテーマ

新高校1学年はどのような教育課題に直面し、その課題にどのような方針で取り組めばよいのか

1 生徒の希望進路実現のために取り組むべき3つの教育課題

【P.4～5】

- ◎ 2018年度の高校1年生は、20年度に初めて実施される「大学入学共通テスト」を受験する。同テストでは、各教科・科目の知識・技能とともに、思考力・判断力・表現力が中心に問われる。
- ◎ 同テストの枠組みにおいて、英語は、民間の英語の資格・検定試験の活用を通して英語4技能が評価される。
- ◎ 個別大学の入試も、20年度から入試区分の名称が改められ、そのいずれの区分でも学力の3要素を多面的・総合的に評価する内容へと転換される。



「思考力・判断力・表現力等の育成」「英語4技能の育成と評価」「多面的評価」への対応が、生徒の希望進路実現の鍵を握る

2 3つの教育課題に取り組む3校の実践

	事例1 茨城県立下妻第一高校 【P.7～9】	事例2 長野県上田高校 【P.10～12】	事例3 京都府・私立 京都産業大学附属 中学校・高校 【P.13～15】
3校の共通点	まず、生徒に育成する資質・能力を明確化		
1 思考力・判断力・ 表現力等の 育成	各分野・単元の学習内容と育成する資質・能力の関係を明確化した教育課程表を教科・科目ごとに作成。それを基に、教師個々で授業改善を実践	互見授業週間を全教科の研究授業週間とし、互見授業を通年の実施に。定期考査では、全教科で論述問題を必出にした	「アクティブ・ラーニング・パターン〈教師編〉」(*)を活用して、授業の実態と課題を明らかにし、ALの視点を取り入れた授業改善を推進
2 英語4技能の 育成と評価	4技能別のCAN-DOリストを作成し、3年間の各時期での到達目標を明確化。4技能の力を測るため、17年度からベネッセの「GTEC」を導入	英語4技能を総合的に伸ばすよう活動を工夫し、その成果を「GTEC」で継続的に測定	スピーキング強化の一環として、18年度の1学年からオンラインの英会話レッスンを導入。進学コースのみだった「GTEC」の受検を、全コースに拡大
3 多面的評価	課題研究などで実践してきたポートフォリオの活用を全校で進めようと、17年12月に勉強会、18年1月に全教師参加の研修会を実施	文部科学省「スーパーグローバルハイスクール」の活動で行ってきた多面的評価を、他教科に広げる手法を模索	評価対象を課外活動や個人活動などにまで広げるため、18年度の早い段階でeポートフォリオを導入できるよう検討

* 株式会社クリエイティブシフトと株式会社ベネッセコーポレーションが共同開発した教師用教材。詳細は P.14 参照。